

## VI 海外大学・機関との交流

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学国際連携推進機構 公開日: 2024-02-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松田, 紀子, ライアン, 優子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/0002000215">https://doi.org/10.14945/0002000215</a>

## VI 海外大学・機関との交流

松田 紀子／ライアン 優子

### 1. 大学間・部局間交流協定

令和4年度の新たな協定の締結は、大学間交流協定1件、部局間交流協定3件である。

新大学間交流協定：国立台湾科技大学（台湾）

新部局間交流協定：

- ・工学部・総合科学技術研究科工学専攻とフィリピン大学ビサヤ校タクロバンカレッジ（フィリピン）
- ・工学部・総合科学技術研究科工学専攻と浙江工業大学材料科学工学院（中国）
- ・理学部・総合科学技術研究科理学専攻と国立台湾海洋大学水産養殖学系（台湾）

既存の協定については、大学間交流協定9件、部局間交流協定6件が更新された。

### 2. 海外同窓会活動・海外における静岡県内自治体、企業との連携

国際連携推進機構は、タイ、インドネシア、ベトナム、マレーシアにおいて静岡大学海外同窓会を運営し、各国の卒業生のネットワーク強化、及び海外の活動における静岡県の自治体、企業との連携推進に努めている。当該期はコロナ禍の影響で活動が難しかったため同窓会の開催を見合わせた。

マレーシア訪問時に、マレーシア同窓会との会合を設けた（令和5年3月28日）。

### 3. 海外拠点整備

#### 1) タイ海外事務所（平成21（2009）年開設、タマサート大学内）

静岡大学タイ事務所をタマサート大学ランシットキャンパスの理工学部を設置している。同事務所の管理、及びアジアブリッジプログラム広報を業務とする非常勤スタッフ1名が週に1日程度の活動を行った。

#### 2) インドネシア海外事務所（平成22（2010）年2月開設、ガジヤマダ大学UGM農学部内）

UGM教員の本学客員教授への任命を通じて、本学職員の海外研修派遣としての現地訪問として積極的に選択されてきたが、当該期はコロナ禍の影響で、事務所を活用した活動は見合わせた。

#### 3) ベトナム海外事務所（平成27（2015）年3月開設、ベトナム・ハノイ国家大学外国語大学内）

ハノイ外国語大学内にスクリーンやパソコンを本学から提供して設置し、本学教職員の現地訪問時の活動拠点としているが、当該期はコロナ禍の影響で、事務所を活用した活動は見合わせた。

#### 4. インターアカデミア・アジア Inter-Academia Asia 2023

コロナ禍の会議として、オンラインによる総合科学技術研究科の紹介、入学を希望する留学生の在学生への相談会、協定校教員との交流会を行った。

(1日目) 2023年1月19日(木) 15:00～17:00

学生向け「学生による総合科学技術研究科4専攻の紹介&相談会」

(2日目) 2023年1月20日(金) 15:00～16:40

学生&教員向け「教員による総合科学技術研究科4専攻の紹介&静岡大学とアジアの協定校教員の交流会」

使用言語：英語、開催方法：Zoom

#### 内容

1月19日(木)

- 静岡大学総合科学技術研究科の紹介
- 4専攻の修士留学生による研究活動の紹介
- アジアブリッジプログラム修士課程出願案内
- 留学生、国際連携推進機構教員による相談会（ブレイクアウトセッション）

1月20日(金)

- 教員による4専攻の紹介
- ABP 概要・出願方法の紹介、Q & A
- 協定校教員との交流会

□ 参加登録者数142、当日の参加者数：19日約30名、20日約25名

#### 登録者の内訳

- 国籍：インド34、スリランカ34、バングラデシュ28、インドネシア24、タイ5、パキスタン3、ネパール3、ミャンマー3、中国3、モンゴル2、フィリピン1、デンマーク1、ベトナム1
- 興味のある分野：農学22、理学38、工学40、情報学31、その他12
- 海外教員：登録 20名、当日の参加13名

教員が参加した協定校：トゥンフセインオンマレーシア大学（マレーシア）、マラヤ大（マレーシア）、インドネシア大学、バンドン工科大学（インドネシア）、国立薬科教育研究所（インド）

#### 5. Inter-Academia インターアカデミア

コロナ禍の移動規制の継続を受け、令和4年度はインターアカデミア会議の次年度開催に向けた企画、準備を進めた。具体的には、次年度に静岡大学を主催校とした会議の開催に向けて、Executive Committee からの承認を得るとともに、学内の運営委員会体制の整備を行った。

## 6. JPTI6 Sustainable Development Consortium

本学と本学の海外協定大学との4か国6大学によるSDGs/ESD推進を掲げたコンソーシアム「JPTI 6 Sustainable Development Consortium (以下「JPTI 6 SDC」)」(令和3年12月7日発足)による「第10回ESD国際フォーラム(10th ESD Forum)」が、令和4年11月24日(木)に開催された。4つのテーマ(Transformativ Education, Post-Covid, Gender Equality, Affordable/Green Society)を掲げたパネルセッションで20の発表が行われ、参加大学での取組や共通の課題・関心について意見交換を行った。本学からは4名の教員が各自の取り組みや研究を紹介し、1名がテーマのモデレーターを務めた。

JPTI6 SDCは、教育学部教員を中心に「ESD国際フォーラム」を通じて重ねられてきた複数の海外大学との研究・教育交流の実績を基盤に、テーマの拡大による組織間交流の一層の発展可能性を期待して関係大学から提案・構築されたもので、関係大学は、本学含む4か国6大学(フィリピン、マリアノマルコス州立大学; インドネシア、インドネシア教育大学、ガジャマダ大学; タイ、シーナカリンウィロート大学、ブラパー大学)である。今後連携した研究・教育の様々な取組のプラットフォームとして活用されることが期待される。

## 7. 博士課程ダブルディグリープログラム(複数学位制度、DDP)

令和4年度の創造科学技術大学院の博士課程ダブルディグリープログラムにおける受入れ実績は3名であった。また、同年度中に5名の同プログラム履修生が博士学位を取得し、1名が単位取得退学となった。

## 8. 海外教育機関等との交流

来訪		
12/5	静岡県大学課主催 インドネシア高校生の来訪(JSTさくらサイエンス助成事業)(浜松)	インドネシア
1/19-20	インターアカデミア・アジア第9回会議(オンライン)	インド、スリランカ、バングラデシュ、マレーシア等
2/24	オンタリオ工科大学の来訪(浜松)	カナダ
3/10	インドネシア西ジャワ州労働局の来訪(浜松)	インドネシア
3/14	プトラマレーシア大学工学部の来訪(浜松)	マレーシア
往訪		
8/22	科学技術振興機構(JST)主催 日本アフリカ大学交流会議・学長円卓会議(オンライン)	アフリカ諸国
1/23	科学技術振興機構(JST)主催 日印大学フォーラム2023(東京)	インド
3/28-29	マラヤ大学訪問(新規プログラム打合せ)、テイラーズ大学(学生交流推進の打合せ)	マレーシア